

子どもが考える子どもの参加

今年も愛知県幸田町の「子ども会議」のファシリテートをさせていただきました。テーマは、子どもの意見をどう集めるか？みんなで話し合った後で、議場で発表しました。

☆子どもの参加

昨年4月に施行された「子ども基本法」ここに、子どもが関係することには、子どもの意見を反映させるように定められています。こども家庭庁には、その指針や活用する場面での意見聴取の方法なども例示されています。

幸田町では、子どもに直接、どんな方法が良いかを聞いてみることにしました。

☆ワークショップに組み立てる

テーマは、とても意義のある、庁舎内で共有してくだされば、さらに意義のあるものです。そのゴールをイメージしてワークショップを組み立てました。

具体的な場面が提示されていると、意見が言い易くなるだろうという予想のもと、4つの場面（4グループに分けるため）とそれぞれに4つの参加の段階を設定しました。OST (open space technology) 的に興味のある場面に集まってもらい、途中で情報交換しながら進めました。

最後は、議場で発表できるように、画用紙に書いてもらいました。

☆子どもたちの感想は？

議場で発表するのは緊張したけど、いい思い出になった。大人に訴えたい事があったけど、訴えることができ満足。ワークショップで意見を言い、みんなの意見をまとめて伝えるのは、面白いし、楽しいし、いい意見にまとまった。子ども会議を年に1度ではなく複数回実施してほしい。など、子どもたちは、とても前向きなコメントをしてくれました。

子どもたちの話し合いの様子や発表を見守ってくれた大人たちは、子ども達がしっかりしていることに驚きと、頼もしさを感じてくださったようです。

議場を使うので、議員さんも傍聴席で聞いてくれました。

*ファシリテーターとして、やりがいのある、テーマでした。子どもの意見反映についてのこども家庭庁のガイドラインでも、ファシリテーターが必要と書かれていました。

長年やってきた子どものワークショップ、子どもと大人が同じテーブルについて話し合うスタイルが認められた気がしました。これから、子どもたちとの話し合いの場をつくっていきましょうと思いました。

